



すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

会って、話して、楽しんで！
おしゃべり会のご案内

お菓子をつまみながら、友達同士で楽しむおしゃべりをする。短い時間だけど、そのときだけは、嫌なことも忘れて笑ったりできる。「おしゃべり会」という集まりが、毎月1回、第4月曜日の午後に、都立汐入公園内のリバーパーク汐入町会防災センター（荒川区南千住8丁目）で開かれています。ひとりで参加しても、お友達を誘って参加してもOK。参加費は無料。毎回、南千住に住む60代から90代の人たちが30人ほど集まって、世間話をしたり、近況を語り合つたりしています。次回は8月26日（月）午後2時から。もう155回目を数えます。

会を主宰しているのは、南千住の「べるぽうと汐入東館」でふとん店を経営する岡本亜矢さん。会を始めたのは亜矢さんの母、故・岡本順子さんと、友人の故・小竹和子さん（初代会長）らです。それはもう10数年前に遡りますが、「年を重ねて体が自由に動かなくなつたときでも、自由に話ができる場所が近所に欲しい

お菓子をつまみながら、友達同士で楽しむおしゃべりをする。短い時間だけど、そのときだけは、嫌なことも忘れて笑ったりできる。「おしゃべり会」という集まりが、毎月1回、第4月曜日の午後に、都立汐入公園内のリバーパーク汐入町会防災センター（荒川区南千住8丁目）で開かれています。ひとりで参加しても、お友達を誘って参加してもOK。参加費は無料。毎回、南千住に住む60代から90代の人たちが30人ほど集まって、世間話をしたり、近況を語り合つたりしています。次回は8月26日（月）午後2時から。もう155回目を数えます。

亜矢さんが会の手伝いを始めたのは今から8年前の2016年ごろからでした。病で入院していた母の順子さんから「会をよろしくね」と託されたのがきっかけです。コロナ禍のころは参加者が少なくなりましたが、今はまた増えつつあると言います。亜矢さんら7人が世話人となつて、この会を維持しています。

「おしゃべり会」に集まる人は何を求めてやつてくるのでしょうか。「私も不思議でした。皆さん、なぜ集まって来るのだろう」と亜矢さん自身も考えたことがあります。そして「そこに行けば誰かに会える、多くの人がそんな場所を求めているのだ」と思うようになりました。おしゃべりしに来るのは、一人暮らしの人も多い。「やはりみんな、誰かに会つてしまへりたい、そ

んなつながらりを求めてやつてくるのだと思います。仲良しグループの人だけが連れ立つてやつて来るのかというと、そうでもないのです。参加者は圧倒的に女性が多いのですが、きれいにおしゃれをしていらっしゃる人もいるのですよ。大切な外出の場だと思つて下さっているのでしょうか」。

「元気だった?」「あなたは?」。そんな言葉を掛け合うだけで、癒されることもある。テレビだけが友だちになつてしまつたら、あまりに悲しい。「人はひとりきりでは生きていけないとということを教えられました」と亜矢さんは言います。「自分たちがやつてきたことですが、おしゃべり会に集まる人によつて、自分たちが助けられているような気がするんです」。

真夏の暑い盛りには、宇治抹茶のかき氷が参加者に出されます。世間話をするにも、おいしいものをいただく「もぐもぐタイム」は大切だから。年末にはbingo大会が催されます。お正月には亜矢さんの琴の演奏が聴けます。

「ひとりでも、お友達同士でも。そして初めての方も、気軽に参加して顔見知りに」。おしゃべり会のドアはいつも開かれています。もし誰かとおしゃべりをしてみたくなつたら、ちょっとの勇気を出して会場をのぞいてみてはどうでしょう。

相談は、岡本亜矢さん＝電話03（3801）4725まで。